

C/2002 V1 (NEAT) 彗星の多波長同時観測

Multi-wavelength Observations for C/2002 V1 (NEAT)

古荘 玲子[1], 河北 秀世[2], 渡部 潤一[3], 川端 弘治[4], 石黒 正晃[5], 征矢野 隆夫[6], 中田 好一[7], 三戸 洋之[8], 福島 英雄[4], 藤井 貢[9]

Reiko Furusho[1], Hideyo Kawakita[2], Jun-ichi Watanabe[3], Koji Kawabata[4], Masateru Ishiguro[5], takao soyano[6], Yoshikazu Nakada[7], Hiroyuki Mito[8], Hideo Fukushima[9], Mitsugu Fujii[10]

[1] 国立天文台計算センター, [2] 県立ぐんま天文台, [3] 国立天文台・天情セ, [4] 国立天文台, [5] 宇宙研, [6] 東大・理・木曾観測所, [7] 東大・理・天文センター, [8] 東大・天文センター・木曾観測所, [9] FBO

[1] ADAC, NAOJ, [2] Gunma Astronomical Observatory, [3] PR Center, Nat.Astron. Obs. Japan, [4] NAO, [5] ISAS, [6] Kiso Observatory Sci., Tokyo Univ, [7] Kiso Observatory, Univ. Tokyo, [8] Kiso Observatory, univ Tokyo, [9] NAOJ, [10] FBO

2003年1月11日から、われわれは太陽に近づき急速に明るくなりつつあったニート彗星(C/2002 V1)について、すばる望遠鏡 COMICS による10ミクロン帯での低分散分光観測と合わせて、国内の複数の望遠鏡による可視/近赤外同時観測キャンペーンを行った。この観測で得られたデータは、可視撮像(三鷹・社会教育用公開望遠鏡・50cm)、可視分光(県立ぐんま天文台65cm および藤井 美星観測所28cm)、可視偏光分光(岡山天体物理観測所91cm)、および近赤外撮像(東大天文センター・木曾観測所105cm)である。これにより、すばる望遠鏡で得られた塵の熱輻射の観測とほぼ同時期の、塵散乱光の情報を得ることが出来た。

発表では、これらの観測結果の解析と塵モデルについて報告する。